



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

〔 私たちの道しるべ Well-being 〕
～幸せになろうね！ 幸せになろうよ～

私たち(社福)童心会の道しるべ”Well-being”とは、
「心も体も健康で社会的にもよりよい生活を送れる人」を創ることです。
私たちはこれを”幸せになろうね！ 幸せになろうよ！”という合言葉に夢を託して
「ひとりで生きる・みんなと生きる・人のために生きる・助けあって生きる」を目指しています。

日本という我が国の思想として定着し、創られてきた情操的魂の土壌は、
「気候・風土・文化・歴史・宗教」と共に育まれてきたように思います。
特に文化・歴史・宗教の訓えの中心にあったものが家訓となり、
社会的な訓えとなり、人間性を高めるために日本の人間学の教えの基盤になったのでしょうか。

三つの良き習慣(三つの戒)

- 1. 悪いことをしない
- 2. 良いことをする
- 3. 人のために尽くす

改めて「ひとりで生きる・みんなと生きる・人のために生きる・助けあって生きる」という訓えは
「1万年以上も続いた縄文時代からの狩猟採集民族の遺伝子」として伝えられてきた
最善なる生き方なのではないでしょうか！？

私たち(社福)童心会は「人間学と人間科学に基づく人間教育」を目指していると書きました。

どのように社会が変わろうが、またどのように科学が進化しようが

人間社会の基盤は「人であり家庭」になるのであります。

またどのように科学が進化し、社会が変容しようとも中心にあるのは「人であり、人の心」なのであります。

だから私たちの考える人間教育は次のようになりました。



笑ったか ずー一番
遊んだか ずー一番

だっこされたか ずー一番
でかけたか ずー一番

やさしくされたか ずー一番
チャレンジしたか ずー一番



E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 **中山 勲**



「人の成り立ちのはじめ」は生命の誕生からはじまり、
「新生児からの学びのはじめ」を見つめなければなりません。

生まれおちてすぐ、母親や周囲の人たちと”交わる”の事はじめは
表情・仕草・眼差し・微笑みから始まり、サーブ&リターン(Serve & return 応答関係)
やりとり、受けこたえから始めるという話をたくさんの人から聞いています。

だから「安心・安全・安定・安穩」としたおだやかな生活から
「子どもの健やかな成長と、学びのはじめ」が生まれるのです。

〔人の成り立ちのはじめ〕

1. 学びのはじめ (五感の刺激・意識・Serve & return)
2. 愛された育ち (身体的接触・ふれあい・ぬくもり・思いやり・生命の保持)
3. 抱きしめ言葉 (情動的接触・いたわり・はげまし・思いやり・情緒の安定)

このような人間としての歩みを通して子どもはいろいろな運動機能や生活技術を獲得しながら、
人間として生きる挑戦(Challenge)を始めるのです。

成功体験は生きる喜び・生きている喜びを味わいながら、
「ひとりでできる、みんなとできる、人のためにできる、助けあってできる」
を学ぶことができるのです。

また、失敗体験は学びあう心を通して、生かされている喜びを味わい、
「ひとりでできた、みんなとできた、ひとのためにできた、助けあってできた」
につなげることができる貴重な経験になるものなのです。

そして、感情(feeling)/喜び・怒り・哀しみ・楽しみが生まれ、
情動(emotion)からは畏怖・畏敬・おそれ、おののき、おそれうやまう心が生まれるのです。
しかし、人の成り立ちを考えてみた時、「自敬・自尊心」を育むことが自分を創ることであり、
人間の核を造るための「人格形成」することにつながるものと確信しました。

最後に改めて私たちの生命の誕生は「天命・天意」によって行われ
「生まれるべくしてここに生まれた、生まれてきてくれてありがとう」という意識の下に
その人の運命・宿命が開かれていくと思っています。
「ここに生まれてきてよかった。助けあって生きよう」という言葉は私たちの願いであり、祈りなのです。

道元禅師の作といわれる四季の移ろいを映す和歌があります。
「春は花、夏はほととぎす秋は月、冬雪さえて冷しかりけり」
四季の移ろいは、人の成り立ちのはじめに会う
「社会環境(人・もの・こと)に適応しながら学習し続ける心・体・脳の働きが、
遺伝子を変化させ、次世代に生きる力を授け、繋げて行くものである。」
という考え方が最近の脳科学の定説になっているようです。

私たちは四季の移ろいをおだやかに味わいながら、子どもたちに負けないよう
健気に”一日一生”を生きたいものです。

令和5年 7月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲

※ 童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。
理事長の部屋【<http://doushinkai.jp/message/>】